

50021 教職総合演習 a、b General Seminar in Teaching Profession		2 年次～ 後期 2 単位			
担当者	長澤 邦紘	履修可能学科	E		
		関連資格	教職 (E)		
サブタイトル	異文化理解のストラテジー				
授業内容 ・ ねらい	<p>この授業では、人類に共通する課題のうち「異文化理解」に焦点を当て、この課題に関するより具体的・個別的な問題を探究するためのプロジェクト研究をおこないます。「異文化理解」の個別的テーマとしては、日英文化の違いや外国語教育のあり方などが考えられますが、受講生はさらに視点を絞って自分のテーマを決定します。(例:日米の漫画の違い;日本と韓国における小学校英語教育の違い)そして、文献、インターネット、フィールド・ワークなどから得たデータをもとに問題を分析・検討し、その結果を報告します(報告は口頭とペーパーによる)。受講生は一定の書式に従ってプロポーザル(研究計画)を書き、中間発表で他の受講者からコメントをもらって(必要があれば)軌道修正し、英語での最終発表において一定基準(下記「評価方法」参照)を満たせば「合格」の評価を得ることができます。これら3つの段階での評価以外にも、研究事例(英語論文)の講読と作業レポートなども評価の対象になります。</p>				
授業計画	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教職科目における「総合演習」の位置づけ; 授業計画・成績評価の説明 2. グループ分け・テーマの選定; プロポーザルの書き方 3. 研究事例の講読 (1) 4. 研究事例の講読 (2) 5. プロポーザル 6. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 7. 個別作業・研究相談 </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> <ol style="list-style-type: none"> 8. 中間発表・グループ討議 9. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 10. 個別作業・研究相談 11. 最終発表準備 (1) 12. 最終発表準備 (2) 13. 最終発表 (1) 14. 最終発表 (2) 15. 全体講評・学校教育への応用 </td> </tr> </table>			<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職科目における「総合演習」の位置づけ; 授業計画・成績評価の説明 2. グループ分け・テーマの選定; プロポーザルの書き方 3. 研究事例の講読 (1) 4. 研究事例の講読 (2) 5. プロポーザル 6. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 7. 個別作業・研究相談 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 中間発表・グループ討議 9. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 10. 個別作業・研究相談 11. 最終発表準備 (1) 12. 最終発表準備 (2) 13. 最終発表 (1) 14. 最終発表 (2) 15. 全体講評・学校教育への応用
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教職科目における「総合演習」の位置づけ; 授業計画・成績評価の説明 2. グループ分け・テーマの選定; プロポーザルの書き方 3. 研究事例の講読 (1) 4. 研究事例の講読 (2) 5. プロポーザル 6. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 7. 個別作業・研究相談 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 中間発表・グループ討議 9. 文献紹介・作業レポート・振り返りノート 10. 個別作業・研究相談 11. 最終発表準備 (1) 12. 最終発表準備 (2) 13. 最終発表 (1) 14. 最終発表 (2) 15. 全体講評・学校教育への応用 				
教科書 参考書	教科書はなし。参考資料はその都度、授業時に配布します。 参) 奥山晃弘・半田博(編著)『総合演習 ワーク・ノート』(田研出版)				
評価方法	プロポーザル 15% 中間発表 15% 最終発表(ペーパー 20% 口頭発表 20%) 研究事例の講読 15% 作業レポート・振り返りノート 15%				
事前準備学習 履修条件等	(1) プロポーザル、中間発表、最終発表の準備。研究事例(英語論文)講読の予習 (2) 受講者が多ければグループ研究に、少なければ個人研究になります。				